

## うめきた2期で実現すべき中核機能について(案)

1.	「みどり」と「イノベーション」の融合拠点.....	1
2.	うめきたの立地を活用するイノベーションの創出 .....	3
2-1	関西のハブとしてのポテンシャル.....	3
2-2	うめきた1期の取り組みとの連携.....	4
3.	イノベーション拠点のテーマ .....	5
3-1	テーマ設定の考え方.....	5
3-2	関西の強み .....	6
3-3	‘うめきた’の立地特性を活用できるテーマ設定 .....	9
4.	うめきたの中核機能に求められるもの.....	10
4-1	新産業創出機能.....	11
4-1-1	総合コーディネート機関の設置 .....	11
4-1-2	イノベーション支援機関の誘致 .....	12
4-1-3	研究機関の参画.....	12
4-1-4	アライアンス企業の立地促進 .....	12
4-2	知的人材育成機能 .....	13
4-2-1	多様な教育プログラムの実現.....	14
4-2-2	国内外の教育・研究機関の連携による人材の集積・交流 .....	14
4-3	国際集客・交流機能.....	15
4-3-1	「みどり」の魅力を活かした集客力の強化 .....	15
4-3-2	まち全体で都市型エリア MICE を実現 .....	15
5.	中核機能を実現する施設構成 .....	17
5-1	プラットフォーム施設.....	17
5-2	イノベーション施設.....	17
6.	まちびらきに先行する取り組み.....	18

## 1. 「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

- うめきた 2 期がまちびらきを迎えるおよそ 10 年後には、すべてのものがインターネットにつながる超スマート社会が到来していると考えられる。
- 人口の高齢化、国際化などさまざまな課題を克服していくため、人々の多様な活動や健やかな暮らしを支える技術やサービスへの社会ニーズはますます高まるものと考えられる。
- こういった課題やニーズの克服のためには、都心機能の高度化や関西の魅力ある都市間の連携強化といったまちづくり・ハード面の充実と、産学官に住民・ユーザーも参画する取り組みといったソフト面の充実の両輪が求められる。

### イノベーションの体験フィールド

- 都心「みどり」の存在は、来街者に他にはない新しい楽しみをもたらし、多様な人々の往来がもたらす交流からさまざまなイノベーションが誘発される。
- さらに、ここで繰り広げられる人々の様々な活動が、個々人の協力を得て情報として活用され、新しい技術やサービスにつながり、社会的課題の解決に生かされていくことが期待される。
- 例えば、うめきたを訪れる人々が、「みどり」の屋外空間で様々な未来技術やサービスを体験し、そこで得られる自らのデータを心身のリフレッシュや生活スタイルの見直し、健康づくりなどに活用したり、体験データの提供や製品・サービスの評価などを通じて学術研究や製品開発へ貢献したりするなど、都心ならではの産学官民一体の取り組みの実現が考えられる。
- このように、「みどり」の屋外空間で展開される人々の様々な活動は、他に類をみない研究、マーケティング、広報・展示の機会をつくりだし、日本国内はもちろん世界から研究者や企業などをうめきたの地に呼び込む。

### 活動のブランド化

- 都心「みどり」とそこで展開される活動が、世界に大阪独自のコンテンツを発信する原動力となり、国際都市「大阪」のブランド力の向上に寄与する。そしてこれらの活動が、国内外からの集客・交流をさらに加速し、新たな観光資源の開発や企業立地などにもつながる好循環をうみだし、都市の活性化をもたらすと期待される。

### 一体的マネージメント

- 「まち」と「みどり」の価値を高め、使いこなし、さまざまな活動につないでいくためには、タウンマネージメントを担う組織の役割が極めて重要となる。
- うめきた 2 期で組成されるマネージメント組織は、研究開発の早い段階から「みどり」の空間を含むまち全体で、産学官民による活動のフィールドを提供する役割を担う。

## 「みどり」とイノベーションの融合（想定される活動の例）



うめきた2期のみどりを訪れ、それぞれの時間を過ごし、楽しむことに加え、

例えば・・・

市民はみどりのフィールドでスポーツを楽しむ際に、健康の維持増進に活用することを目的に、研究機関からバイタルデータを測定する最新のデバイスを借り受け、得られたデータを研究機関に提供することで自身の健康情報のフィードバックを受ける。

研究機関は、市民から了承のうえで提供されたバイタルデータを解析し、新技術の実証を行う。

また、市民は、スポーツグッズ等の新商品を企業から借り受けて、みどりのフィールドで試用・体験するなど、最先端の商品やサービスに触れ、楽しむ機会を得ることができる。企業は、新商品を試用してもらい、アンケートなどにより評価・意見を収集するとともに、研究機関によるバイタルデータの解析結果を合わせて検証することで、よりニーズにあった新商品・サービス開発に反映する。



こうした活動を通じて、産学官民の共同によるオープンイノベーションの場を形成する。

## 2. うめきたの立地を活用するイノベーションの創出

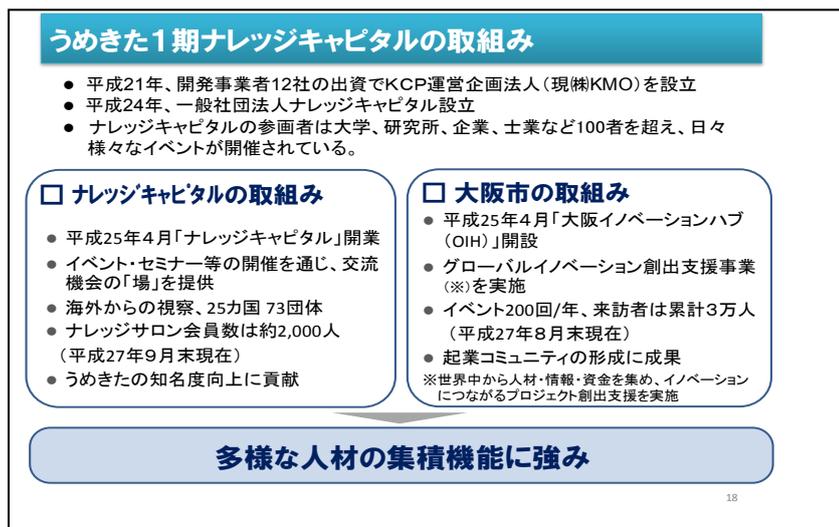
### 2-1 関西のハブとしてのポテンシャル

- うめきたは、4線6駅を有する関西の交通結節点にあり、関西の学術・文化・観光拠点へ抜群のアクセス性をもつ。
- さらに、平成34年度に見込まれる新駅の開設によって関西空港と直結し、世界と関西をつなぐゲートウェイとしてこれまで以上に利便性が高まる。
- また、うめきたのある大阪駅周辺には、ビジネスサポート機能や多様な商業施設など、高度な都市機能が集積しており、国内有数のビジネス環境を有している。
- 国境を越えた経済活動がますます盛んになるなか、うめきたの特性を活用して、ヒト・モノ・カネ・情報の交流がさらに拡大し、国境を越えた新しいビジネス開発拠点となることを期待できる。
- うめきたは、彩都・神戸医療産業都市・京都リサーチパーク・けいはんな学研都市などの関西を代表する研究開発拠点から1時間圏内の位置にある。
- 世界レベルでみると、関西はひとつのクラスターであり、うめきたの抜群のアクセス環境を活用し、関西国家戦略特区の拠点をつなぐハブとして、関西の研究開発拠点でうみだされる様々な技術シーズを産業につなぐ役割を担う。



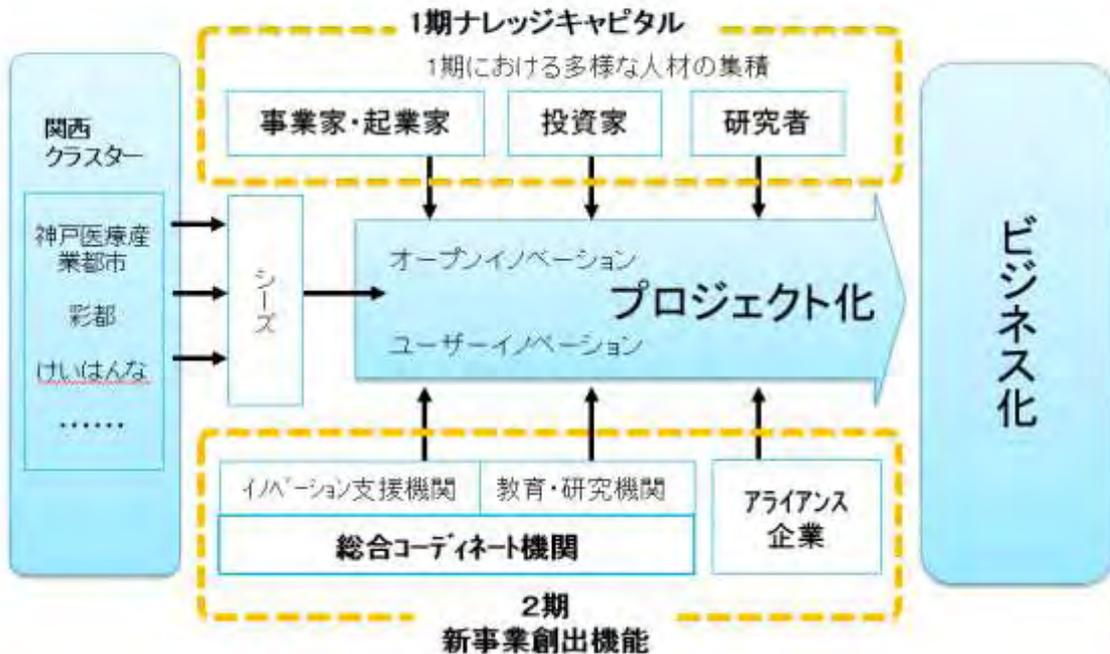
## 2-2 うめきた1期の取り組みとの連携

- うめきた1期では、ナレッジキャピタルの活動が活発に行われ、知的交流の仕掛けが動いており、多様なビジネス機会の創出によって、起業を志す人材の集積がみられている。
- とりわけ、IT・サービス分野では、ニーズの発見から短期間で事業化のめどをつける案件が生まれるなど、ビジネス創出の成功例も生まれている。



- うめきた2期開発においては、1期にはない屋外の開放的な「みどり」の空間を活用し、ナレッジキャピタルの活動と連携することにより、研究と産業をつなぎ、うめきた全体でイノベーション創出を加速することが重要である。

## うめきたの立地を生かしたイノベーション創出



### 3. イノベーション拠点のテーマ

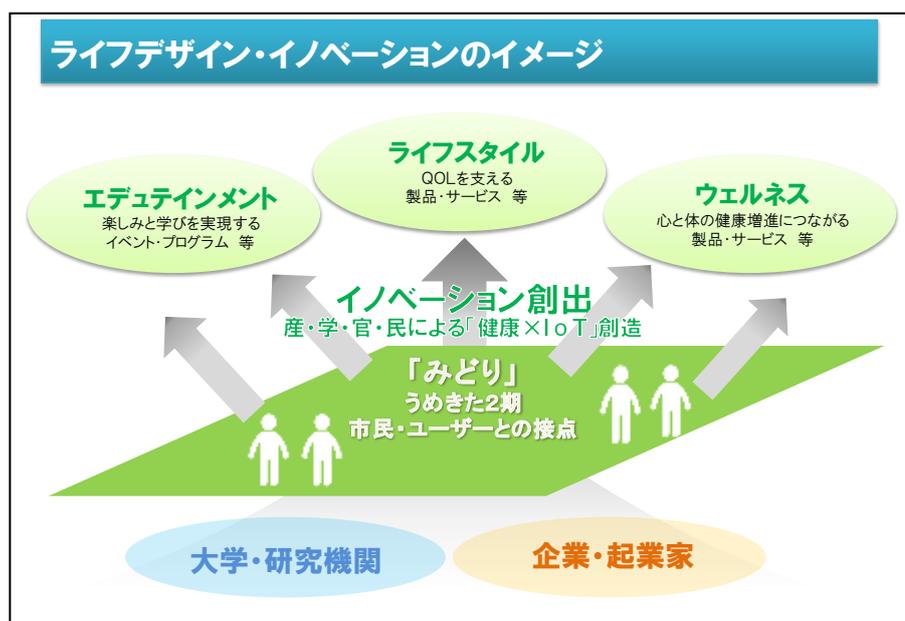
イノベーション拠点の活動をスタートするにあたり、関西の強みを活かし、うめきたの立地特性をふまえたテーマを、「ライフデザイン・イノベーション」とする。

超スマート社会が到来する中、IoT やビッグデータの活用により、創薬や医療機器開発などの分野にとどまらず、人々が健康で豊かに生きるための新しい製品・サービスを生み出すことをめざす。

#### 3-1 テーマ設定の考え方

- 世界のクラスターをみると、例えば、オランダのフードバレーでは、自国の強みである農業に着目して「食」をテーマとして設定し、関連する地域の大学・研究機関や企業を繋いでクラスターを形成するとともに、海外とのアライアンスを積極的に構築するなど、新産業創出に向けた多様な取り組みが展開されている。
- このようにわかりやすいテーマを設定することで、発信力が高まり、専門人材が集まりやすくなる等の効果があり、成功へのハードルを下げることができると考えられている。
- うめきた 2期におけるイノベーション創出の活動をスタートするにあたり、関西の強みを活かし、関西のクラスターを繋ぐハブとして、また関西のゲートウェイとしてのうめきたの立地特性を踏まえたテーマとして、「ライフデザイン・イノベーション」を設定する。

- 「ライフデザイン・イノベーション」には、創薬や医療機器開発などの医療分野にとどまらず、人々が健康で豊かに生きるための新しい製品・サービスが幅広く含まれており、うめきた2期の「みどり」のフィールドを産学官民が活用する“ユーザー参加型の開発環境”とすることが重要となる。



### 3-2 関西の強み

関西には、健康・医療分野における先進的な取組みの蓄積がある。

#### 国家戦略特区等を活用した取り組みが進んでいる

- 総合特別区域法に基づき関西イノベーション国際戦略総合特区の指定を受けている。また、“健康・医療分野における国際的イノベーション拠点の形成を通じ、再生医療を始めとする先端的な医薬品・医療機器等の研究開発・事業化の推進等を目標”として、国家戦略特別区域法に基づき関西圏国家戦略特別区域の指定を受けている。
- 特区計画の推進などにより、うめきた1期にPMDA、AMEDの誘致を実現し、薬事に関する各種相談や創薬支援事業の環境整備など先進的な取組みが進んでいる。
- 国家戦略特区を活用し、関西圏の人と技術、産業をつなぐハブとして、うめきたを整備活用することが重要となる。

#### 特徴あるクラスターが形成されている

- 彩都等を含む北大阪バイオクラスター、神戸医療産業都市、けいはんな学研都市など、健康・医療に関わる大学・研究機関、企業の研究開発拠点が集積するクラスターが形成され、関西全体で高いポテンシャルを有している。

＜関西のプロジェクト例＞

関西では多様な産官学の連携プロジェクトが展開されており、そういったプロジェクトの人々の生活との接点、実証の場として、うめきた 2 期との連携も期待される。

京都大学 COI 拠点

概要

人と社会が「つながる」こと、いつも健康を管理し、高度医療により支えられることによる、安心感に根ざした活動的な社会、「しなやかほっこり社会」を実現するため、コードレスな電力伝送と高度 ICT 技術が支える安心生活、センサーネットワーク、予防・先制医療、先端医療の領域において、

大学と企業が専門分野と業種を超えて垂直・水平連携した研究開発を行います



大阪大学データビリティフロンティア機構

概要

安心安全な社会の実現のためには、広範な分野で日々生成されているビックデータの迅速な解析と効果的な利活用により、いかに有用な情報や知識を取り出すかが重要な鍵となります。大阪大学では、「利用可能な超大量データを持続可能かつ責任をもって活用すること（データビリティ）」による新たな科学の方法である「データビリティサイエンス」を探求する「データビリティフロンティア機構」を立ち上げ、人工知能をはじめとする高度な情報関連技術を駆使し、



生命科学、医歯薬学、理工学、人文科学等の科学技術・学術の新たな地平を切り拓くとともに、社会的、公共的、経済的価値の創造を促進するための学際融合研究を推進します。また、データビリティの飛躍的向上に資する次世代を担う研究者や技術者を生み出す「協奏と共創の場」として、人材育成に積極的に貢献してまいります。

「健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス」

概要

より正確な健康維持・増進への指針、つまり将来にわたり健康で“生き活き”とした人生を送っていく上での「羅針盤」の提供を目指し、そのためのツール（仮想自身）の構築を進めます。そのため、先端医療技術の研究開発拠点「神戸医療産業都市」に、理化学研究所及び国内外の大学・研究機関で中心的に活躍している研究人材を結集し、ライフ



サイエンス、ナノテクノロジー、計測科学、デバイス、コンピューター科学を融合することで、“ヒト”に関する解析データ等の統合的な理解を進め、将来の自分の健康状態を予測するために必要なコンピューター上での仮想自身の構築を進めます。

.....

経済界の取組みが進んでいる

- 関西経済連合会をはじめとした、関西の産学官による「関西健康・医療創生会議」の創設や、大阪商工会議所による医薬品・医療機器開発促進事業の実績などの取組みが進んでいる。
- 第54回関西財界セミナーにおいても、“関西エリアに集積する各クラスター発のトータルヘルスケアソリューションにより、・・・産学官民による共創と循環を促すとともに、それを実現するための中核拠点形成やまちづくりを推進する”という方向性が示されている。
- 関西には、情報関連企業やものづくり企業の分厚い集積があり、こういった企業の健康関連事業分野への参入も加速している。

### 3-3 ‘うめきた’の立地特性を活用できるテーマ設定

#### “人”の活動を起点とするイノベーションの誘発

- うめきたは、都心の一等地に立地する他に類のない「みどり」の空間と、まち全体をマネジメントするタウンマネジメントのしくみにより、まちをフィールドにユーザー参加型のビジネス創出が期待できる。
- 人々の活動を起点する健康や生活分野の製品・サービスの開発には、健康・医療関係はもとより、情報関係やものづくり関係など幅広い企業や研究機関の参画が不可欠であり、異分野・異業種の人材交流機能を持つうめきたの立地環境が適している。

#### 関西のゲートウェイとして、多国籍、多世代の人々の交流

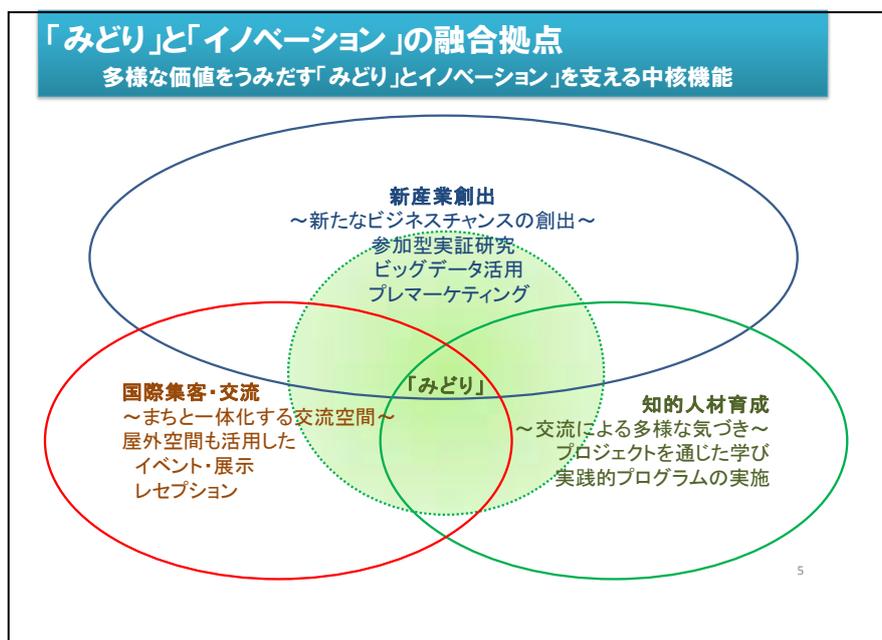
- 世界、とりわけアジアでは、人口の高齢化や所得の増加によって今後ますます健康や生活に関連する産業へのニーズが高まることが予想されている。
- うめきたは、こういった国や地域との人的交流を強化・拡大することによって、国境を越え、直接世界につながるビジネスを創出する拠点となることが期待できる。

### 3-4 テーマの発展方向性について

- 「ライフデザイン・イノベーション」は、うめきたの立地特性を生かし、人と健康・生活の関わりの中から異分野融合によるさまざまなイノベーション創出が期待できるテーマと考えられる。
- とりわけ、未来生活を支える競争力ある製品・サービスの開発には、もののインターネット、インダストリー4.0などと呼ばれるものづくりの新しい取り組みが不可欠となっており、ものづくりを含めた幅広い企業が参画する柔軟で発展性のある取り組みが必要である。
- うめきた2期のまちびらきまでには、大幅な技術革新や社会経済環境の変化も予想されることから、時代のニーズに応じてテーマを柔軟に変えていくことも想定して取り組むことが重要である。

#### 4. うめきたの中核機能に求められるもの

- イノベーション創出の鍵は、多様な人々が関わりあい、コミュニケーションし、新しい事業を生み出し、育てていく仕組みにある。
- 海外のクラスターでは、新事業創出の中心的な役割を担う大学・研究機関が存在し、クラスター内の産学官民の協働を促進するとともに、国内外の外部関連機関との接続を図る総合コーディネート機関や起業をサポートする支援機関、インキュベーション機関等の支援インフラを整備・誘導し、多面的で継続的な相互連携を促進させている。
- 関西は、我が国を代表する企業群や起業家の集積、世界レベルの研究開発拠点など、トップレベルのクラスターを形成する要素を十分に有している。
- これらのポテンシャルが、関西全体の大きな動きとなり、オール関西で、イノベーション創出を加速していくためには、それぞれの拠点が必要に応じて連携し、企業や起業家、ユーザーなどとコミュニケーションしながら各々の持つ強みを新産業につないでいくことが重要である。



#### 4-1 新産業創出機能

中核機能の中心となる新産業創出機能の実現には、立地にすぐれ、高質なみどりの空間を擁するうめきたに、関西の研究開発拠点の人と技術を、産業、ユーザーにつなぎ合わせて新産業創出を加速するしかけを導入することが重要となる。

このため、総合コーディネート機関を設置し、イノベーション支援機関や新産業創出に関わる企業の参画を得て、イノベーションプラットフォームの形成とマネージメントに中心的な役割を担うことが求められる。

##### 4-1-1 総合コーディネート機関の設置

- 総合コーディネート機関は、うめきた2期でのイノベーションプラットフォーム形成の中心的役割を担い、関西をはじめ国内外の研究開発拠点と連携し、技術の事業化を加速する。
- 民間ノウハウを活用する観点から、経済界の協力のもと広く企業の参画を募るとともに、開発事業者も参画する。
- 新事業開発、組織マネージメントに実績のあるリーダーのもと、まちづくりの準備期間から活動を開始する。
- この活動に参画する企業にとっては、通常の業務の範囲では出会うことの難しい異分野・異業種の交流機会が日常的に提供され、新事業創出のスピードアップを図ることが期待できる。
- また、民間開発事業者にとっては、総合コーディネート機関の活動が、うめきたのイノベーション拠点としての認知度を高め、単なるオフィスや商業施設とは異なるまち全体の魅力やグレードを生み出すことにつながると考えられる。
- 総合コーディネート機関は、イノベーション創出のフィールドとして、「みどり」の空間やまち全体を活用していくため、様々な企画づくりや実施の調整などタウンマネージメント機関と積極的に連携・協力する。

##### <総合コーディネート機関に求められる活動例>

- 企業と研究機関を結び付けるネットワーク機能  
うめきたに進出する企業、研究機関を中心にネットワークをつなぎ、具体的な事業提携につながるマッチングや紹介事業を実施する。  
さらに、プラットフォームに集まる事業シーズや新興企業を国内外に紹介するなど、新たなビジネス開発の機会を提供する。
- 革新的プロジェクト支援、実証研究コーディネート  
プロジェクト組成や資金獲得に向けた支援や、まちや「みどり」をフィールドに実証研究を行うためのコーディネートなど、関係支援機関とも連携しながら、開発や事業化の加速をめざす。
- 国際的な連携関係構築機能

国境を越えた最適なチームによるプロジェクトづくり、ビジネスアライアンスの実現など、広域での事業展開を実現するため、海外の研究開発拠点やビジネス拠点との日常的な関係づくりや、話題性のある国際会議等への参加、交流・情報発信などを行う。実際に海外のビジネス開発拠点を訪問しての関係構築や、強力な海外ネットワークへの参画、アジアをはじめとする海外の研究者、ビジネスパーソンとのネットワーク強化などが必要となる。

#### 4-1-2 イノベーション支援機関の誘致

- 開発や事業化のステージに応じた支援を実施するためには、幅広い機関の参画が不可欠となることから、自らの事業としてイノベーション支援を実施している機関の立地を求める必要がある。
- これらの機関が同じ施設内に入居するという全国初の場合をつくり、支援機関相互の密なコミュニケーションをつくることによって、研究成果の事業化、共同研究の促進、起業支援等の豊富な支援メニューをイノベーション創出に効率よく活用していくことができる。
- うめきたの、他に類のない立地優位性を活用することによって、関西一円へのイノベーション加速効果の拡大が期待できる。
- 国等の機関を対象とする誘致活動については、総合コーディネート機関のもと、大阪府・市、経済界が開発事業者と連携して取り組む必要がある。

#### 4-1-3 研究機関の参画

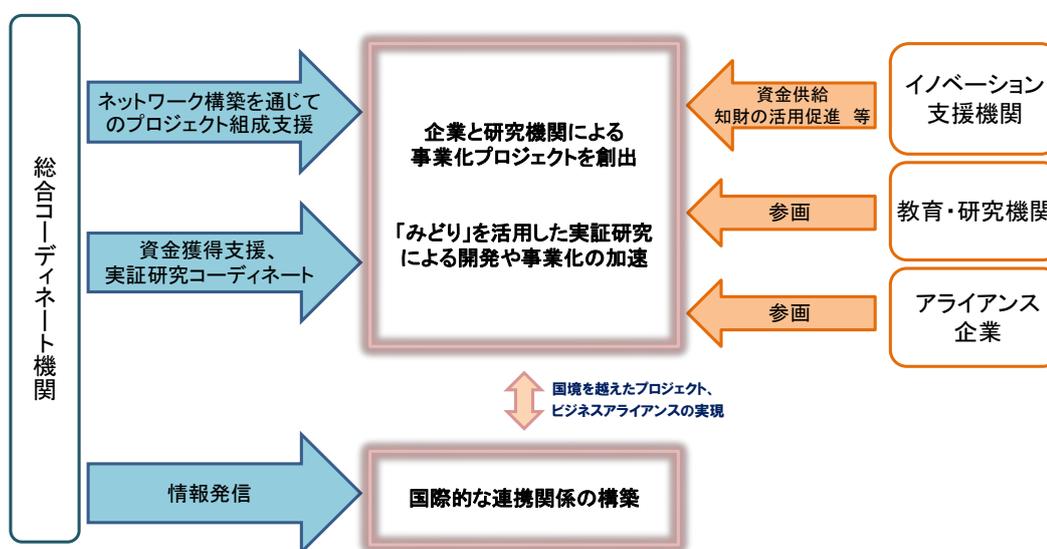
- うめきた2期では、屋外の「みどり」を活用し、ユーザーのフィードバックを得て、効果的・効率的に研究開発や実用化プロジェクトを進めることができるよう、研究機関と、多様なユーザーとのインタラクティブな開発環境を構築する。
- このような開発環境を活用し、産学連携によって、国の競争的資金を得たプロジェクトチームが一定期間共同ラボに滞在し、実証フィールドを活用して研究開発の方向性を最適化しながら事業化を加速する、などの取組みが考えられる。
- また、関係機関が集まることによって、プロジェクトの成長ステージに応じた人材や資金の獲得機会の増加も期待される。

#### 4-1-4 アライアンス企業の立地促進

- 研究成果やビジネスアイデアの事業化に向けては、多様なビジネスパートナーが必要となる。このため、企業の新規事業企画部門や研究部門、投資会社、ビジネスアクセラレーター、企画会社、デザイン会社など、事業化のあらゆるステージに関係する企業と容易に接点の持てる環境づくりが求められる。
- とりわけベンチャーキャピタルやアクセラレーター等の立地は、事業の成長ステージに応じたサービスを総合的に提供し、事業化を促進する効果が高まると考えられ

- る。
- さらに、試作品製作サービスや、プロジェクト参加者が一定期間滞在できる施設、日常的に交流できる場の提供など、イノベーション創出活動に参画するさまざまな企業が考えられる。
  - アライアンス企業の立地促進については、開発事業者のノウハウを活用した取り組みが期待される。

総合コーディネート機関の役割と進出機関との連携



#### 4-2 知的人材育成機能

**イノベーションの担い手となる知的人材育成に向けては、うめきた2期で実践されるプロジェクトへの参加によるイノベーションプロセスの体験や、国内外の大学などの連携による教育プログラムの実施など、さまざまな人材育成の機会を作り出す取り組みが重要である。**

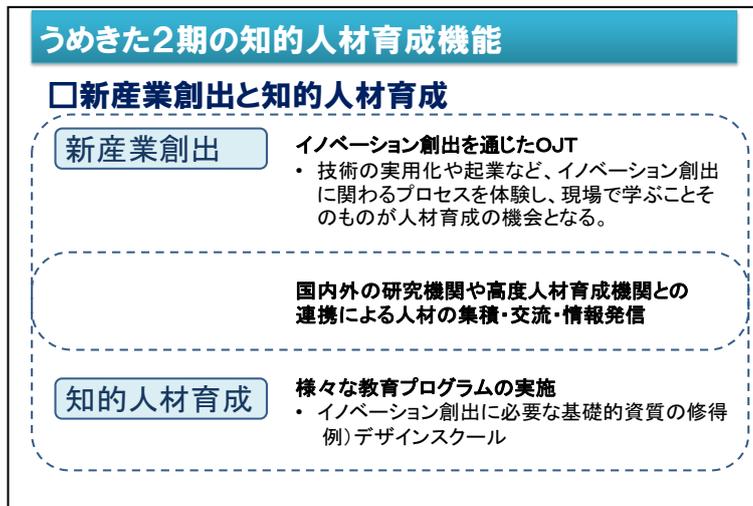
- 大阪都心では、過去には工場等制限法によって多くの大学が郊外に流出した。近年社会人大学院等のサテライトキャンパスの都心立地がすすんだものの、若者がまちづくりや新事業創出に参加する機会が十分ではないと考えられる。
- イノベーションを担うのは、構想力や実行力を備えた人材であり、ビジネスパーソンや若者が育ち、つながり、ネットワークを広げていけるよう、新規プロジェクトに参加できるしくみづくりや、大学等の連携による実践的教育プログラムを実施できる環境整備が必要となる。

#### 4-2-1 実践的な教育プログラムの実現

- うめきたでの人材育成については、“みどりの屋外空間を活用したイノベーション創出”を特徴とするプログラムが考えられる。
- 例えば、実証研究・マーケティングリサーチをはじめ、技術の実用化プロセスを体験するプログラムや、みどりの屋外空間に集まる多様な人々の活動や交流の観察に基づく研究プログラムなどが期待できる。
- さらに、こういった大学等の活動と連携し、こどもの頃からの科学マインド・起業家マインドを醸成するプログラムや国際人材育成プログラムなど、既存の枠にとられない新たな人材育成の取り組みも期待される。

#### 4-2-2 国内外の教育・研究機関の連携による人材の集積・交流

- イノベーションの担い手として世界で活躍する人材を育成していくため、連携大学院などによって単独の教育研究機関だけでは不足する専門人材を補完しあい、わが国を代表するレベルの人材育成プログラムが実施されることが期待される。
- イノベーション創出を担う人材育成に向けては、  
例えば、
  - ・ 独自の構想力を強みとして、技術を有する研究者・技術者と、会社経営の実績等を有する経営者をつなぎ、イノベーション創出を促進するデザイン人材。
  - ・ 既存の学問領域や技術分野を越えてチーム等を組成し、新たな社会的課題の解決やマーケット・ニーズへの対応に取り組むことができる文理融合人材。
  - ・ 事業リスクをとって、社会的課題の解決や先進技術の強みを活かしたビジネスモデルを企画し、資金調達や出口戦略をデザインし、行動する起業人材。などの育成に向けたさまざまなプログラムの実施が期待される。
- 例えば、ライフデザイン・イノベーションを実現する学際融合分野では、健康予防のためのビッグデータを活用できる医療情報の専門人材や、グローバル医療を支える医療通訳人材などの育成が考えられる。
- さらに、海外とのアクセスの良いうめきたの立地を生かし、国内大学と海外大学とのジョイントディグリープログラムの実施や留学生交流事業への社会人の参加、国内外の大学による開かれた学術交流や人材交流の場の形成などにより、世界に通用するグローバルな人材の育成が期待される。



#### 4-3 国際集客・交流機能

都心に生まれた高質な「みどり」の空間を活用し、集客・交流につながる様々な活動を展開するとともに、うめきた2期の施設と大阪駅周辺の多様な施設が相互に連携することによって、一定規模の MICE が開催できる環境の実現を図り、大阪・関西の発信力を高める。

##### 4-3-1 「みどり」の魅力を活かした集客力の強化

- うめきた2期の「みどり」は、災害時の一時避難場所など安心・安全の基盤となることはもちろん、ビジネスパーソンや買い物客だけでなく、ファミリー層や子ども、高齢者など従来とは異なる新たな人々の都心への来訪を促す。
- 都心に生まれた質の高い「みどり」の空間では、人々に屋外空間の新しい楽しみ方を提案し、憩い、食事、スポーツ、文化、学習、交流等の場として、高い集客力を発揮することができる。
- さらに、研究者やビジネスパーソン、起業家などイノベーションの担い手となる多様な人材を集め、コミュニケーションの機会を提供し、新たな活動を促す場となる。
- このような「みどり」の空間の持つ魅力を発信、活用していくためには、まちとみどりの一体的なマネジメントによって、さまざまな活動を誘発し、集客・交流に取り組むことが重要である。

##### 4-3-2 まち全体で都市型エリア MICE を実現

- うめきた2期の集客施設は、多様な使い方に対応して柔軟に運用できる施設構成とすることにより、都心開催を求めるさまざまな MICE の受け入れが可能となり、まちの集客力が高まるものと考えられる。
- さらに、うめきたのある大阪駅周辺地区には、国際水準のホテル、一定規模の会議



## 5. 中核機能を実現する施設構成

中核機能は、主に総合コーディネート機関が運営し、公的な機関が立地することでイノベーションを牽引する「プラットフォーム施設」と、民間企業のノウハウを活用して新事業創出を促進する「イノベーション施設」で構成する。

ここに立地する産学官の主体が、相互に連携してイノベーション創出活動を行う。

### 5-1 プラットフォーム施設

- 中核機能のプラットフォーム施設は、総合コーディネート機関が運営し、主として公的な支援機関と事業開発プロジェクトのチームが立地することでイノベーション創出を牽引する。
- プラットフォーム施設として、賃料負担力は低いが、イノベーション創出の波及力が高いファンディングエイジェンシー等が入居できるスペースの確保が望ましい。
- 施設は、総合コーディネート機関の事務所やイノベーション支援機関等が入居するオフィスのほか、プロジェクトの入居を想定したレンタルラボ、知的人材育成にも活用可能な共用ラボ、人材育成プログラムを実施する共用講義室、複数の会議室などで構成することを想定する。
- 施設整備にあたっては、総合コーディネート機関と十分な協議を行うこととし、快適な共用オフィスや交流空間など、多様な人材同士の自然な交流を生むような工夫が求められる。

### 5-2 イノベーション施設

- ベンチャーキャピタルやアクセラレーター等、イノベーション創出を事業として支援する企業等が立地できるスペースの確保が必要である。

例えば、

#### 新産業創出機能

- ・ 新規事業の立ち上げに必要な投資会社、ビジネスアクセラレーター、企画会社、デザイン企業
- ・ 企業の新規事業開発の担当部門や研究所
- ・ 電子工作機械を設置し、アイデアや技術を迅速に具体化し試作品から小ロットの生産まで対応できるデジタルファブリケーション施設 など

#### 知的人材育成機能

- ・ イノベーション創出を支える未来志向の人材育成機関 など

### 国際集客・交流機能

- ・ 展示会等が開催でき、フレキシブルに活用できる施設
  - ・ 国内外から訪れる起業家や研究者、留学生が週単位・月単位で利用可能な料金水準の短期滞在型宿泊施設
  - ・ 食堂、カフェ、交流スペースなど新産業創出や研究開発に関わる知的人材が交流できる飲食施設 など
- イノベーション施設の充実に向けては、開発事業者のノウハウの積極的導入が求められる。

## 6. まちびらきに先行する取り組み

- うめきた2期開発は、開発事業者の決定から先行まちびらきまで、6年程度の年月が必要となると見込まれている。この先行まちびらきまでの期間を活用し、うめきた2期の認知度・関心を高め、「ライフデザイン・イノベーション」に関心の高い研究者や起業家、ビジネスパーソンなどを集めていくことが必要である。
- このため、まちびらきに先行して、各種研究会や国際会議の開催あるいは実証プログラムの試行など、プロモーション活動やプレ事業を企画・実施していくことが望まれる。
- また、その際には、関西を代表する研究開発拠点や大学・研究機関等とのネットワークを形成するよう努め、まちびらき後すみやかに活動できる準備を整えて行く